

3. 気候変動に関する監視・予測情報の充実

温室効果ガスなどの長期的な傾向を高精度かつ継続的に観測し、地球環境に関する基盤的情報を提供する。

気候変動対策のための持続的・集中的な観測基盤の構築

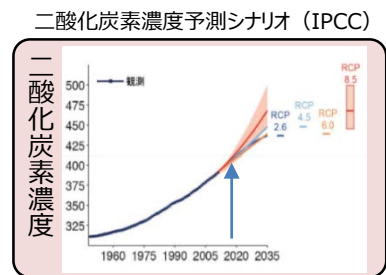
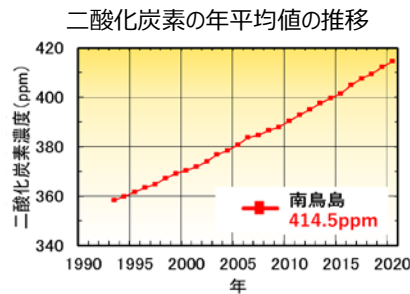
◎グリーン社会の実現に向けて、科学的基盤データを継続的に提供し、自治体等の防災対策や脱炭素社会に向けた最適な気候変動対策を推進するため、これまでの継続的な観測から得られた知見や観測技術の進展を踏まえた持続的・集中的な観測基盤を構築する。



○観測所の観測環境や観測データの長期継続性等を踏まえ、重要な観測地点に設置している観測装置を高精度なものに更新し、老朽化によるデータの欠落等を防ぎ、長期的な観測体制を確保する。
また、世界気象機関が定める最重要観測所に指定されている「南鳥島」については、観測項目を追加し、観測体制をさらに強化する。これらの実施により世界的な地球温暖化対策に寄与する。

- 大気環境観測 : 綾里・南鳥島の観測装置を更新
- ▲ オゾン層観測 : つくばの観測装置を更新

【温室効果ガス観測による地球温暖化対策への活用】



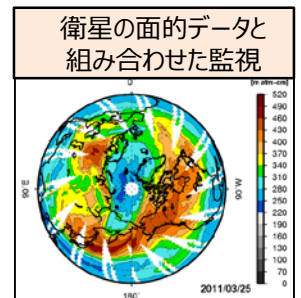
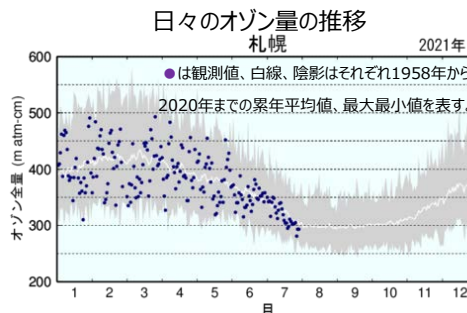
【適応策】地球温暖化将来予測の高度化

○正確な将来予測に基づいた国としての適応策の実施へ

【緩和策】観測データと予測シナリオの比較検証

○乖離状況を踏まえた国としての緩和策の実施へ

【オゾン層観測によるオゾン層の回復状況の監視と対策判断への活用】



○オゾン層の回復予測と観測値の比較検証の結果により、十分な回復が見られない場合には、フロン類の排出抑制徹底や追加対策の実施判断へ